

9. 農薬耐性菌検定実施状況

(1) 対象病害：灰色かび (*Botrytis cinerea*)

(2) 検定薬剤：菌糸生育度調査………チオファネートメチル剤、プロシミドン剤、ジェットフェンカルブ剤、フルジオキシニル剤
胞子発芽阻害度調査…メパニピリム剤、ペンチオピラド剤

(3) 対象作物、検定法および結果

作物	検定結果 (耐性菌株/検定株数)	検定法	防除効果
トマト	チオファネートメチル剤 感受性 23.5% (8/34) 高度耐性 76.5% (26/34) プロシミドン剤 感受性 70.6% (24/34) 中度耐性 29.4% (10/34) ジェットフェンカルブ剤 弱耐性 76.5% (26/34) 高度耐性 23.5% (8/34) メパニピリム剤 耐性 2.9% (1/34) ペンチオピラド剤 耐性 52.9% (18/34) フルジオキシニル剤 耐性 0% (0/34)	培地：メパニピリム剤 FGA平板培地 ペンチオピラド剤 YGA平板培地 上記以外の薬剤 PDA平板培地 培養温度：20℃ 培養時間：メパニピリム剤 96時間 ペンチオピラド剤 168時間 上記以外の薬剤 48時間 薬剤濃度： チオファネートメチル剤 10、100ppm プロシミドン剤 5ppm ジェットフェンカルブ剤 10ppm メパニピリム剤 3ppm ペンチオピラド剤 1ppm フルジオキシニル剤 0.2ppm	チオファネートメチル剤及びジェットフェンカルブ剤の高度耐性菌の割合は昨年度と比較して減少した。プロシミドン剤は昨年度と比較して中度耐性菌の割合が減少した。また、メパニピリム剤、ペンチオピラド剤は昨年度より耐性菌の割合が減少した。フルジオキシニル剤耐性菌は引き続き検出されなかった。
イチゴ	チオファネートメチル剤 感受性 68.8% (11/16) 高度耐性 31.2% (5/16) プロシミドン剤 感受性 81.3% (13/16) 中度耐性 18.7% (3/16) ジェットフェンカルブ剤 弱耐性 25.0% (4/16) 高度耐性 68.8% (11/16) メパニピリム剤 耐性 6.3% (1/16) ペンチオピラド剤 耐性 56.3% (9/16) フルジオキシニル剤 耐性 0% (0/16)	測定項目：菌そう直径 判定基準： 下記の各薬剤濃度における菌そう生育の有無 チオファネートメチル剤弱耐性 10ppm 高度耐性 100ppm プロシミドン剤 中度耐性 80%未満※ 高度耐性 80%以上	チオファネートメチル剤とプロシミドン剤、メパニピリム剤は昨年度と比較して耐性菌の比率が減少した。ジェットフェンカルブ剤は昨年度より高度耐性菌の比率が増加した。また、ペンチオピラド剤耐性菌の比率が増加した。フルジオキシニル剤は耐性菌が検出されなかった。
花き類	チオファネートメチル剤 感受性 42.1% (8/19) 高度耐性 57.9% (11/19) プロシミドン剤 中度耐性 0% (0/19) ジェットフェンカルブ剤 弱耐性 52.6% (10/19) 高度耐性 47.4% (9/19) メパニピリム剤 耐性 26.3% (5/19) ペンチオピラド剤 耐性 31.6% (6/19) フルジオキシニル剤 耐性 0% (0/19)	※菌そう直径を薬剤無添加培地と比較 ジェットフェンカルブ剤 弱耐性 0.3ppm 高度耐性 10ppm メパニピリム剤 耐性 3ppm ペンチオピラド剤 耐性 1ppm フルジオキシニル剤 耐性 0.2ppm	チオファネートメチル剤高度耐性菌の割合が昨年より減少した。ジェットフェンカルブ剤は昨年に引き続き、弱耐性菌の割合が100%に達した。また、昨年度は確認されなかったメパニピリム剤で耐性菌が確認された。ペンチオピラド剤耐性菌の割合は昨年より減少し、プロシミドン剤とフルジオキシニル剤は耐性菌が検出されなかった。

(4) 指導概要

施設的环境改善や系統の異なる薬剤のローテーション散布を徹底し、耐性菌の発生を抑制する。新規の薬剤で効果の高いものを積極的に取り入れていく。また、今後も耐性菌の種類とその発生推移を地域、ほ場レベルで詳細に調査する必要がある。